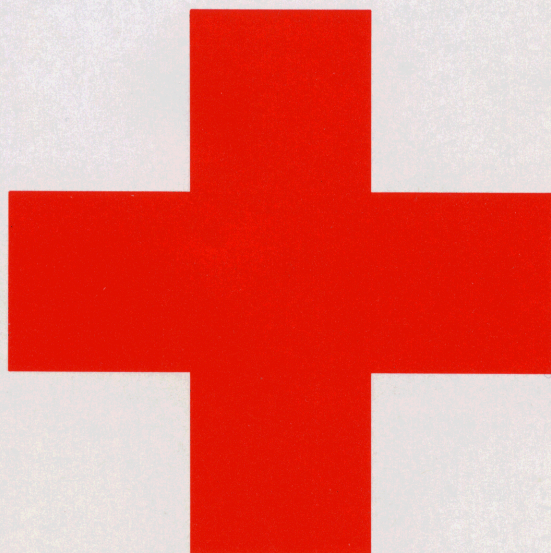


日本赤十字臨床衛生検査技師会誌

日 赤 検 査

The Journal of Red Cross Medical Technologists

————— 1994 ————— 第28号 —————



日本赤十字臨床衛生検査技師会

目 次

【口 絵】勲五等瑞宝章叙勲 佐 藤 春 枝 先生

【巻 頭 言】

あらゆることに感心と感動を……………会長 笠 井 直 幸……………1

【研 究】

HDL-コレステロール測定における各種沈澱試薬の比較……………松山赤十字病院 西 山 政 孝ほか……………3

虚血性心疾患患者のCCR値が低値を示した原因の検索……………松山赤十字病院 高 野 英 樹ほか……………8

当院受診の小児におけるHBV浸潤率——HBV母児間感染防御施行より5年経過して——

……………松山赤十字病院 西 山 記 子ほか……………11

HBキャリア褥婦のHBe抗原・抗体陽性率の変動……………松山赤十字病院 矢 野 和 則ほか……………14

ヒト脾液により発現する二峰性アルブミン……………長岡赤十字病院 小 林 幸 子ほか……………21

腹水を伴う脾疾患患者にみられるアルブミン異常……………長岡赤十字病院 小 林 幸 子ほか……………28

伝染性単核症と急性肝炎における異型リンパ球の検討……………松山赤十字病院 清 家 康 子ほか……………32

心電図記録時に於ける水道水使用による導電性の検討及びそれによって生じる労力の省力化と経済的効果について

……………沖縄赤十字病院 瑞慶山 良 助ほか……………36

腹部超音波時に偶然に発見された4才児の卵巣未熟奇形腫について

……………沖縄赤十字病院 比 嘉 万 里ほか……………41

縦隔原発精上皮腫の1例……………沖縄赤十字病院 比 嘉 讓 ほか……………44

虫垂粘液嚢胞腺腫による虫垂重積症の1例……………姫路赤十字病院 綿 貫 裕 ほか……………49

Kety-Schmidt 法による脳循環代謝測定法の改良——CO-oximeterによる脳酸素消費量の測定——

……………武蔵野赤十字病院 塩 見 彰 子ほか……………54

エルゴノビン負荷により、左冠動脈主幹部に攣縮をきたした1症例について

……………松江赤十字病院 岩 谷 伸 夫ほか……………59

エルトル小川型 *Vibrio cholerae* と *Plesiomonas shigelloides* を同時に検出した1症例

……………大阪赤十字病院 鳥 谷 悦 子ほか……………65

腎血管筋脂肪腫の1症例……………足利赤十字病院 柏 瀬 芳 久ほか……………68

多量の心嚢液、胸水貯留をきたし、急激な経過で死亡した intravascular bronchiolo alveolar tumor の1剖検例

……………足利赤十字病院 柏 瀬 登 美子ほか……………71

電解酸性イオン水(ハード酸性水)の消毒効果とハード酸性水及びソフト酸性水の効果の比較検討

……………前橋赤十字病院 林 繁 樹ほか……………76

【特別寄稿】

第9回日本赤十字臨床衛生検査学会を実行に当たり

……………第9回学会実行委員長(姫路) 堀 坂 守……………88

第9回日本臨床衛生検査学会をおえて……………学会長 笠 井 直 幸……………92

【北から南から】……………96

【報 告】……………110

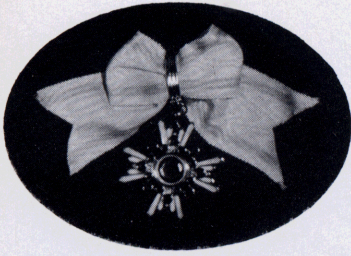
【会 則】……………116

【附:会員名簿】……………125

前日本赤十字臨床衛生検査技師会々長（元前橋日赤）

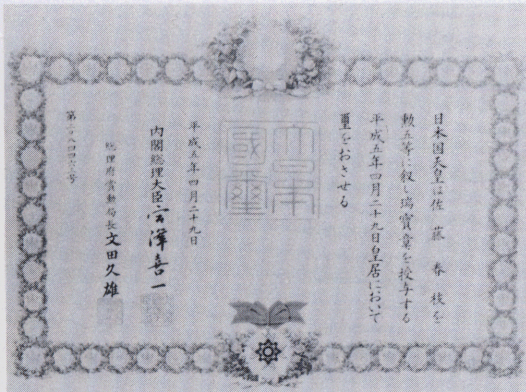
佐藤 春枝 先生

平成5年 勲5等瑞宝章 叙勲



略 歴

昭和7年5月23日	東京都に生る
11年	父の事業のため、家族と共に中国へ渡る
20年3月	済南第一日本国民学校を卒業
4月	済南日本高等女学校へ入学
8月15日	終戦
21年4月1日	日本へ引揚げ帰国、沼津・横浜を経て前橋へ定住
6月	群馬県立前橋高等女学校（県立前橋女高）へ転入
23年9月	前橋赤十字病院検査部へ就職（前女定時制へ編入） 職業と学業とを両立
27年3月	群馬県立前橋女子高等学校（定時制）を卒業
30年4月	東京文化医学技術学校へ職員のまま派遣され就学 卒業後、職場後輩の指導に当たる
34年	第一回衛生検査技師国家試験に合格
45年	第一回臨床検査技師国家試験に合格
55年1月	前橋赤十字病院臨床検査技師長を拝命・就任 （全国赤十字病院に於ける初の女性技師長）
63年	日本赤十字臨床衛生検査技師会会長に就任
平成2年5月24日	福見秀雄賞受賞
4年5月31日	前橋赤十字病院を定年退職（60歳誕生月末日） 勤続44年間 検査業務のみに従事
平成5年4月29日	春の叙勲 勲5等瑞宝章受賞（保健衛生） （長年の前橋赤十字病院に於ける業績に対し）



群馬県技師会祝賀会 小林副会長出席

多くの方々に感謝を

佐 藤 春 枝

この受賞の内示をいただいた時、「人違いでは」と申し上げたほど、私にとりましては、思いがけない事で本当にびっくり致しました。

身に余る光栄に浴し、身の引き締まる思いで受賞の喜びを噛み締めました。

顧みますと、私はただ自分のなすべき事を、ただ夢中にやり続けて来ただけでした。

この度の受賞に際し、今まで私を育て、教育して下さいました多くの方々に、心から感謝を申し上げました。その方々の暖かい愛に包まれて、今の私が存在するのであると、信じております。

学問の基礎をお教え下さいました小学校の先生方、その基礎のうえに葉や花、そして実とも言えます学問を授けて下さいました中学校や、高校の先生方、専門の知識を叩き込んで下さいました医学技術学校の教授陣の方々、この先生方のご指導無くしては、今の私は無いと思います。

その上、私が44年もの長い間、一度も嫌になることなくこの仕事を続ける事ができましたのは、病院の院長始め歴代検査部長・臨床の医師の方々・先代技師長各位の暖かいご指導、検査部内の後輩の大きな協力が有ったからこそと感謝しております。

その他、日本臨床衛生検査技師会、日本赤十字臨床衛生技師会の仲間の方々が、常に楽しく学び合う機会を作して下さいました。

さらに、私的なことですが、私が検査の仕事のみに専念する事を許し、見守ってくれた両親、家のことを一切顧みない私の、その身の回りの事までを種々世話してくれた弟妹達、本当に私は幸せ者であったと思います。

多くの方々に感謝しながら、伝達式で知事から渡された勲章を付け、正装で皇居へあがり、天皇陛下の拝謁を受けました。興奮と緊張の日々でした。

自分が選んだ生涯の仕事を、赤十字の旗の下で定年まで続ける事ができ、責任を果し得た喜びを持って退職後の日々を送っていた私に、一層の喜びを与えられた今回の栄誉でありました。

赤十字に勤めていて良かったと、赤十字人としての幸せの大きさを、改めて感じ直した私でした。

私がお世話になりました多くの方々に、心から御礼を申し上げます。

〔 巻 頭 言 〕



あらゆることに感心と感動を

日本赤十字社臨床衛生検査技師会

会 長 笠 井 直 幸

兎角、現代っ子が無関心、無感動、無表情、無気力、無責任と評価する人がいる。残念ではあるが当たらずとも遠からずな面もある。しかし、このような現代っ子を一体誰が育てたのだろう。不透明な政治、米の食えない農耕民族、何一つとして確実なものがない世相、不快指数の高いご時世であります。

1993年10月13日午前11時30分突然、検査部管理室、私のデスクの電話が鳴った。最近、とみにクレームの多い日々だ。患者の取り違い、EDTA依存性血小板減少症、又何か？と身構えて受話器を取った。

「外科の鍋山（副院長）です。貴方のところの細胞診に常日頃感謝している。大阪の人で大阪のある病院で乳癌の健診を9月初旬に受けたそうですが、結果が不明で再度プローベを採取させて欲しいと告げられ不信となり、当院外科（鍋山副院長）へ受診された。触診と超音波診断、注射器吸引による細胞診により、少しの時間待ちで乳癌と診断、手術日も決定して、患者さんから非常に喜ばれ感謝された。これは私だけの喜びでもなく、感謝されたのではない。貴方のところのスタッフに宜敷、私から感謝していると伝えて下さい」との電話でありました。

診療の本筋から言えば、診療の合間に電話することなど雑用にすぎないが、用を雑にするから雑用であって、これは検査部を育てようとする立派な仕事であると思うと同時に、クレームの多い電話の中でキラッと光る！この様な医師が一人でも居られる限り、私達は一生懸命頑張っていこうと決心した。褒められたから言うのではない、クレームもまた感心を寄せて下さった育てようとする愛であります。

(私の日記より)

翌日、朝のミーティングにて副院長の感謝の気持ちをスタッフに伝えた。

「愛」の反意語は「憎」でありましょう。「無関心」もまた「愛」の反意語であります。

あらゆる事に関心を持って心をこめた検査成績を医師を通して患者さんに心を届けたい。

不確実の時代であればある程唯一確実なことは誰からも取り去られたり、盗まれない自分の身につけた技術、医学的知識であります。

21世紀の到来も、もうそこまで来ております。産・学・技一体となって知恵の結集を図り、新しい世紀における重要で貴重な時期であると認識し、未来からの呼びかけに対応すべく心と思考と行動を切望します。

本会誌を発行するに当たり、忙しい中を御研鑽され投稿下さいました会員諸氏に感謝致しますと共に本誌が会員諸氏の今後の育成に役立つことを心から願いたいと思います。

編集担当されました足利赤十字病院の大西一明先生に心から感謝いたします。

日本赤十字臨床衛生検査技師会会誌

「日 赤 検 査」

第28号

平成6年11月30日 印刷

平成6年12月10日 発行

発 行 所／日本赤十字臨床衛生検査技師会

〒124 東京都葛飾区立石5-11-12

葛飾赤十字産院検査課内

TEL.03-3693-5211(内232)

発 行 者／笠 井 直 幸

編 集 者／大 西 一 明

制 作／あ さ の 印 刷

〒326-03 足利市福富町1411-2

TEL.0284-73-0173 FAX.73-0171